

JALANA決算について④財務状況とキャッシュフロー（営業、投資、財務）の見方について
 （JAL退職者懇談会の世話人会学習会で一世話人が一般的分析手法に基づき、個人的見解として分析・解説したものです。）

両社とも機材投資を自己資金でまかなえる余裕を持っています！

○財務状況の見方（JAL）

企業の財務状況に焦点をおいた企業活動報告書として貸借対照表（BALANCE SHEET, 通常B/Sという。）が広く用いられている。これは、損益計算書（P/L）が会計期間内（通常1年間）の収益、損失関係の報告書に対し、企業の決算期末時点における財務状況（資産、負債、資本）を表したものだ。

調達した資金（他人資本、自己資本）を活用して、企業活動の結果、期末に下図の左右の面積を比較し、左の方（借方）が膨らめば利益が生じたこととなり、逆に右側（貸方）に比べ面積が少なくなれば損失が生じたこととなる。

JAL (FY2011)		JAL (FY2012)	
借方 (運用実態)	貸方 (調達源泉)	借方 (運用実態)	貸方 (調達源泉)
入手資本 1兆876億円	他人資本 6,737億円	入手資本 1兆2,166億円	他人資本 6,334億円
	自己資本 2,272億円		自己資本 4,115億円
純利益 1,886億円		純利益 1,716億円	

○キャッシュフローで見る

企業の会計期間内における資金需要を「入り、出」の両面から捉え、更に営業活動レベル、投資活動レベル、財務活動レベルに分けて、それぞれのレベルでの資金繰り状態を明らかにして、資金面からの基本的企業体質を投資家に情報公開するもの。

1. 営業活動によるキャッシュフロー

営業活動によるキャッシュフローの区分は航空座席の販売による収入や、その原価のための支出、従業員等に対する賃金等の営業経費支出の収支を資金面から捉えるもので、これがプラスということは、資金需要に対し資金調達を外部に頼ることなく自己資金で賄える良好な状態をあらわす指標。

	JAL	ANA	JAL/ANA
前年度 (FY2011)	264,853 百万円	173,196 百万円	1.53
当年度 (FY2012)	256,673 "	214,406 "	1.20

JAL, ANA 共に FY2011, FY2012 と続いてプラスとなっていて、資金面では優良であるといえる。特に JAL は ANA をも凌ぎ、資金状態にかなり余裕があることを表している。

2. 投資活動によるキャッシュフロー

本業が順調で営業キャッシュフローがプラスになっている企業（JAL, ANA）の場合、通常は稼いだ資金（自己資金）で将来の投資（新機材の購入等）をし、余った資金で有利子負債の返還にあてる。したがって、例えば、航空機等の新たな購入（新たな投資）を自己資金で賄える状況を表す指標。従って、この段階での指標としてはマイナスが理想的。

	JAL	ANA	JAL/ANA
前年度 (FY2011)	△147,221 百万円	△166,323 百万円	0.89
当年度 (FY2012)	△264,436 "	△333,744 "	0.79

JAL, ANA 共にマイナスを記録していて、これは手元資金で投資資金が賄えていることを意味している。特に ANA は当年度中に有価証券の取得及び有形固定資産の取得に計 911,375 百万円を投資し、これを主因とし大きくマイナスとなっている。保有自己資金の余裕を意味している。

3. 財務活動によるキャッシュフロー

企業の資金の外部調達及び返済、例えば主に銀行借入（調達）と借入金の返済のバランスを表すもので、資金繰りが苦しい企業は借入金が増えることでプラスとなり、逆に資金繰りに余裕のある企業はマイナスとなる。ただし、企業戦略として積極的投資の場合はプラスとなり、一概に「悪」とは判定できない。

	JAL	ANA	JAL/ANA
前年度 (FY2011)	△274,460 百万円	16,171 百万円	---
当年度 (FY2012)	△60,643 "	84,549 "	=

ANA は当年度、株式発行による収入が 173,718 百万円あり、年度計ではプラスとなった。これは外部調達資金ではあるものの金利の発生しない返済不要（一般的には）資金であり、銀行借入金とは異なる。